

【 復活のトロパリ 第1調 】

きゆ うせ え いしゆよ、 イウデヤのひとはかを  
 救 世 主 人 墓  
 ふ うじて、 へいそつ なんぢのいさぎよきみを  
 封 兵 卒 爾 潔 軀  
 まもるとき、 なんぢはみつかめにふくかつ  
 守 時 爾 三日目 復 活  
 して、 せかいにいのちをたまえり。  
 世界 生 命 賜  
 ゆえ にてんぐんはなんぢいのちをほどこすの  
 故 天軍 爾 生 命 施  
 しゆによべり、ハリストスよ、こうえいは  
 主 呼 光 榮  
 なんぢのふくかつにきし、こおうえいはなんぢ  
 爾 復 活 歸 し、 光 榮 爾  
 のくににきす、ひとりひとをいつくしむ  
 國 歸 獨 人 慈  
 しゆよ、こうえいはなんぢのおもんばかりに  
 主 光 榮 爾 慮  
 きす。

【 日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

しととひとしくどうざなるもの、ちゅう  
 使 徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい  
 實 神智 役者 聖  
 なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい  
 神 撰 笛 愛  
 にみちたるうつわ、わがくにのこう  
 満 器 我 國 光  
 しょおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ  
 照 者 亜使徒主教 聖  
 よ、なんぢのぼくぐんのため、および  
 爾 羊 群 爲 及  
 ぜんせかいのために、いのちをたもうせい  
 全世界 爲 生命 賜 聖  
 さんしゃにいのりたまえ。  
 三者 祈 給

【日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調】

こうえいはちちとこ おと せいしんにき  
 光 榮 父 子 聖 神 歸  
 す、  
 せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが  
 成 聖 者 亜使徒 聖 我  
 くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ  
 國 爾 旅 人 及 異 邦 人 受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの  
 爾 初 我 國 於 己  
 れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの  
 外 來 者 知  
 ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて  
 光 暖 流 爾 敵  
 きをぞくしんのことなあし、かれらにか  
 屬 神 子 爲 彼 等 神  
 みのおんちようをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて  
 恩 寵 與 教 會 建  
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり  
 今 此 教 會 爲 祈  
 たまあえ、けだしわれらそのしよしはなん  
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾  
 ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ  
 呼 我 善 牧 者 慶  
 べよ。

【 復活のコンダク 第1調 】

いまもいつもよよにい、ア  
 今 何 時 世 世 に い、ア  
 ミ ン。



しゅさいよ、なんぢはかみなるによりてこう  
主宰 爾 神 因 光  
えいのうちに はかよりふくかつし、せせ  
榮 中 墓 復 活 世  
かいをもともにふくかつせしめたまえり。  
界 借 復 活 給  
ひとのせいはいはなんぢをかみとしてほめう  
人 性 爾 神 讚 歌  
たい、しはほろぼされ、アダムはたのし  
死 滅 樂  
み、エヴァはいまなわめよりとかれ  
今 縛 釋  
てよろこびてよぶ、ハリストスよ、なんぢ  
觀 呼 爾  
はしゅうじんにふくかつをたもうしゅなり。  
衆 人 復 活 賜 主

司祭) ( 黙誦：<sup>せい</sup> 聖なる神、<sup>かみ</sup> 聖者の中に<sup>せいじゃ</sup> 息い、<sup>うち</sup> セラフィムより<sup>いこ</sup> 聖三の聲を以て歌頌せられ、

ヘルヴィムより<sup>さんえい</sup> 讚榮せられ、<sup>ことごと</sup> 悉くの天軍より<sup>てんぐん</sup> 伏拝せられ、<sup>ふくはい</sup> 萬物を無より<sup>ばんぶつ</sup> 有と<sup>む</sup> 有と<sup>ゆう</sup>

なし、<sup>ひと</sup> 人を<sup>なんぢ</sup> 爾の<sup>ぞう</sup> 像と<sup>しょう</sup> 肖とに依りて造り、<sup>よ</sup> 爾が<sup>つく</sup> 諸の<sup>なんぢ</sup> 賜を以て之を飾り、<sup>もろもろ</sup> 賜を以て之を飾り、<sup>たまもの</sup> 賜を以て之を飾り、<sup>もつ</sup> 賜を以て之を飾り、<sup>これ</sup> 賜を以て之を飾り、<sup>かざ</sup> 賜を以て之を飾り、

ねが<sup>もの</sup> 願う者に<sup>ちえ</sup> 智慧と<sup>めいご</sup> 明悟とを<sup>あた</sup> 與え、<sup>つみ</sup> 罪を行<sup>おこな</sup> う者を<sup>もの</sup> 棄てずして、<sup>す</sup> 其<sup>その</sup> 救の<sup>すくい</sup> 爲に<sup>ため</sup> 痛悔<sup>つうかい</sup>

を立て、<sup>た</sup> 我等<sup>われらいや</sup> 卑しくして<sup>ふとう</sup> 不當なる<sup>なんぢ</sup> 爾の<sup>しょぼく</sup> 諸僕を、<sup>こ</sup> 此の<sup>とき</sup> 時に<sup>おい</sup> 於ても、<sup>なんぢ</sup> 爾が<sup>せい</sup> 聖な

る<sup>さいだん</sup> 祭壇の<sup>こうえい</sup> 光榮の<sup>まえ</sup> 前に<sup>た</sup> 立ちて、<sup>なんぢ</sup> 爾に<sup>とうぜん</sup> 當然の<sup>ふくはい</sup> 伏拝<sup>さんえい</sup> 讚榮を<sup>たてまつ</sup> 奉るに<sup>た</sup> 堪うる<sup>もの</sup> 者と

なしし<sup>しゅさい</sup> 主宰よ、<sup>なんぢ</sup> 爾<sup>なみづか</sup> 親ら<sup>われら</sup> 我等<sup>ざいにん</sup> 罪人の<sup>くち</sup> 口よりも<sup>せいさん</sup> 聖三の<sup>うた</sup> 歌を受け、<sup>う</sup> 爾の<sup>なんぢ</sup> 仁慈を<sup>じんじ</sup>



にきす、いまもいつもよよ世に、アミン。  
 歸 今 何時 世世

せいなるじょうせいのもよ、われらをあわ  
 聖 常 生 者 我 等 憐

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう  
 聖 神 聖 勇

き、せいなるじょうせいのもよ、われらを  
 毅 聖 常 生 者 我 等

あわれめよ。  
 憐

司祭) ( 黙誦：<sup>しゅ</sup>主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、<sup>へる</sup>ヘルヴィムに座する者よ、<sup>なんぢ</sup>爾は其國  
 の<sup>こう</sup>光榮の<sup>ほう</sup>寶座に在りて恒に崇め讃めらる、<sup>いま</sup>今も<sup>いつ</sup>何時も<sup>よよ</sup>世世に、 )

【 提綱 主日第1調 】

司祭) <sup>つし</sup>慎みて<sup>き</sup>聽くべし、<sup>しゅうじん</sup>衆人に<sup>へいあん</sup>平安、

誦經) <sup>なんぢ</sup>爾の<sup>しん</sup>神にも、

司祭) <sup>えいち</sup>睿智、

誦經) <sup>しゅ</sup>プロキメン、<sup>われらなんぢ</sup>主よ、我等爾を<sup>たの</sup>頼むが<sup>ごと</sup>如く、<sup>なんぢ</sup>爾の<sup>あわれみ</sup>憐を我等に<sup>われら</sup>垂れ<sup>た</sup>給え、<sup>たま</sup>

しゅよ、われらなんぢをたのむがごとく、  
 主 我 等 爾 頼 如

なんぢのあわれみをわれらにたあれえたあま  
 爾 憐 我 等 垂 給

え。

誦經) <sup>ぎじん</sup> 義人よ、<sup>しゅ</sup> 主の爲に <sup>よろこ</sup> 喜べ、<sup>さんえい</sup> 讚榮するは <sup>ぎしゃ</sup> 義者に <sup>かな</sup> 適う、



しゅ よ 、 わ れ ら な ん ぢ を た の む が ご と く 、  
主 我 等 爾 頼 如  
な ん ぢ の あ わ れ み を わ れ ら に た あ れ え た あ ま  
爾 憐 我 等 垂 給  
え 。

誦經) <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>われらなんぢ</sup> 我等爾 <sup>たの</sup> を <sup>ごと</sup> 頼むが如く、



な ん ぢ の あ わ れ み を わ れ ら に た あ れ え た あ ま  
爾 憐 我 等 垂 給  
え 。

【 アポストロス 使徒經 131 端 コリント前書 4 章 9 節～16 節 】

司祭) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>せいしと</sup> 聖使徒パヴェルが <sup>じん たつ</sup> コリント人に <sup>ぜんしょ</sup> 達する <sup>よみ</sup> 前書の讀、

司祭) <sup>つつし</sup> 謹みて <sup>き</sup> 聽くべし、

誦經) <sup>けいてい</sup> 兄弟よ、<sup>われおも</sup> 我意うに、<sup>かみ</sup> 神は <sup>われらしと</sup> 我等使徒を <sup>すえ</sup> 末なる <sup>もの</sup> 者と爲して、<sup>し</sup> 死に <sup>さだ</sup> 定められたる <sup>もの</sup> 者の <sup>ごと</sup> 如く <sup>あらわ</sup> 顯

<sup>われら</sup> せり、<sup>せかい</sup> 我等は世界の爲、<sup>てん</sup> 天使等 <sup>およ</sup> 及び <sup>ひと</sup> 人人の爲に、<sup>ため</sup> 觀玩と爲りたればなり。 <sup>われら</sup> 我等はハリス

<sup>よ</sup> トスに <sup>ぐ</sup> 困りて <sup>なんぢら</sup> 愚なり、<sup>なんぢら</sup> 爾等はハリストスに <sup>おい</sup> 於て <sup>ち</sup> 智なり、<sup>われら</sup> 我等は <sup>よわ</sup> 弱く、<sup>なんぢら</sup> 爾等は <sup>つよ</sup> 強し、<sup>なんぢら</sup> 爾等

<sup>えい</sup> は榮を <sup>う</sup> 享け、<sup>われら</sup> 我等は <sup>はづかしめ</sup> 辱に <sup>お</sup> 處るなり。 <sup>いま</sup> 今に <sup>いた</sup> 迄るまで <sup>われら</sup> 我等は <sup>う</sup> 飢え、<sup>かわ</sup> 渴き、<sup>はだか</sup> 裸裎になり、<sup>う</sup> 撻

<sup>さだま</sup> たれ、<sup>お</sup> 定り居る <sup>ところ</sup> 處なく、<sup>ろう</sup> 勞して <sup>て</sup> 手づから <sup>わざ</sup> 工を作す。 <sup>われらのし</sup> 我等 <sup>しゅくふく</sup> 罵られては <sup>きんちく</sup> 祝福し、<sup>きんちく</sup> 窘逐

<sup>しの</sup> せられては <sup>そし</sup> 忍び、<sup>いの</sup> 謗られては <sup>われら</sup> 禱る、<sup>よ</sup> 我等は <sup>あくた</sup> 世の汚穢の <sup>ごと</sup> 如く、<sup>しゅう</sup> 衆の <sup>ふ</sup> 踐む <sup>ところ</sup> 所の <sup>ちり</sup> 塵垢の <sup>ごと</sup> 如く

<sup>いま</sup> せられて <sup>いた</sup> 今に至れり。 <sup>われ</sup> 我は <sup>なんぢら</sup> 爾等を <sup>はづか</sup> 愧し <sup>ほつ</sup> めんと <sup>これ</sup> 欲して <sup>しよ</sup> 此を <sup>あら</sup> 書するに <sup>すなわちわ</sup> 非ず、<sup>あい</sup> 乃我が愛

<sup>ところ</sup> <sup>こ</sup> <sup>ごと</sup> <sup>なんぢら</sup> <sup>おし</sup> <sup>わ</sup> <sup>けだし</sup> <sup>なんぢら</sup> <sup>おい</sup> <sup>ばんにん</sup> <sup>しふ</sup>  
 する 所 の子の如く 爾 等を訓うるなり。 蓋 爾 等には、ハリストスに於て 萬人の師傅あ  
<sup>いえども</sup> <sup>おお</sup> <sup>ちち</sup> <sup>われ</sup> <sup>おい</sup> <sup>ふくいん</sup> <sup>もつ</sup> <sup>なんぢら</sup> <sup>う</sup>  
 りと 雖、多くの父あるなし、我ハリストス イイスに於て 福音を以て 爾 等を生みた  
<sup>ゆえ</sup> <sup>われ</sup> <sup>なんぢら</sup> <sup>もと</sup> <sup>われ</sup> <sup>なら</sup> <sup>われ</sup> <sup>お</sup> <sup>ごと</sup>  
 ればなり。 故に我 爾 等に求む、我に效いて、我のハリストスに於けるが如くせよ。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 神はわたしたち使徒を死刑囚のように、最後に出場する者として引き出し、こうしてわたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ。わたしたちはキリストのゆえに愚かな者となり、あなたがたはキリストにあって賢い者となっている。わたしたちは弱い、あなたがたは強い。あなたがたは尊ばれ、わたしたちは卑しめられている。今の今まで、わたしたちは飢え、かわき、裸にされ、打たれ、宿なしであり、苦勞して自分の手で働いている。はずかしめられては祝福し、迫害されては耐え忍び、ののしられては優しい言葉をかけている。わたしたちは今に至るまで、この世のちりのように、人間のくずのようにされている。わたしがこのようなことを書くのは、あなたがたをはずかしめるためではなく、むしろ、わたしの愛児としてさとすためである。たとひあなたがたに、キリストにある養育掛が一万人あったとしても、父が多くあるのではない。キリスト・イエスにあって、福音によりあなたがたを生んだのは、わたしなのである。そこで、あなたがたに勧める。わたしにならう者となちなさい。

\*\*\*\*\*

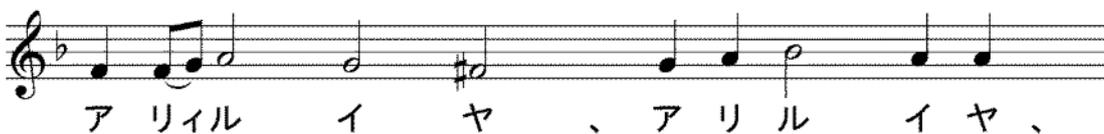
【 アリルイヤ 主日第1調 】

司祭) <sup>なんぢ</sup> <sup>へいあん</sup>  
 爾 に平安、

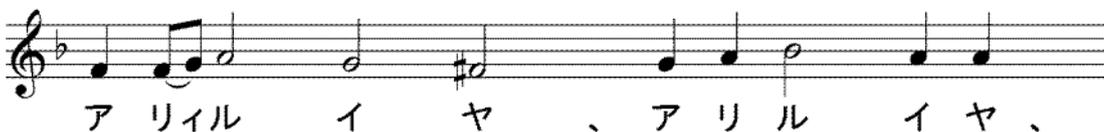
誦經) <sup>なんぢ</sup> <sup>しん</sup>  
 爾 の神にも、

司祭) <sup>えいち</sup>  
 睿智、

誦經) アリルイヤ、



誦經) <sup>ねが</sup> <sup>わ</sup> <sup>ため</sup> <sup>あだ</sup> <sup>かえ</sup> <sup>われ</sup> <sup>しよみん</sup> <sup>したが</sup> <sup>かみ</sup> <sup>さんしょう</sup>  
 願わくは我が爲に 仇を復し、我に諸民を 従わしむる神は 讚頌せられん、





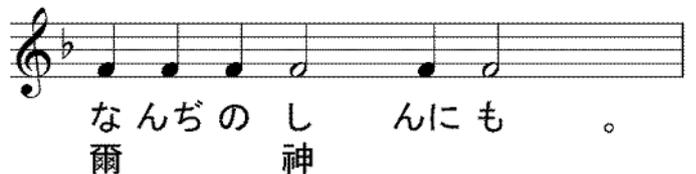
誦經) <sup>おおい</sup>大なる救を王に施し、<sup>すくい</sup>憐を爾の膏<sup>おう</sup>つけられし者<sup>ほどこ</sup>ダヴィド及び其裔<sup>あわれみ</sup>に<sup>なんぢ</sup>世々に<sup>あぶら</sup>垂るる者よ、<sup>もの</sup>我爾の名に<sup>およ</sup>歌わん、<sup>そのすえ</sup><sup>よよ</sup>



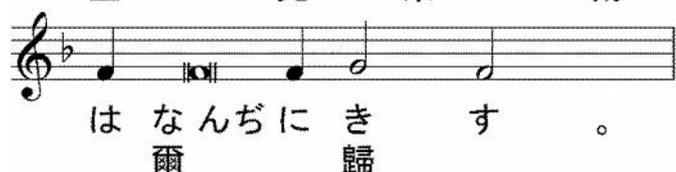
司祭) ( 黙誦: <sup>ひと</sup>人を愛する主宰よ、<sup>あい</sup>我が心<sup>しゅさい</sup>に神を知る<sup>わ</sup>智慧の<sup>こころ</sup>浄<sup>かみ</sup>き光<sup>し</sup>を輝<sup>ちえ</sup>かし、<sup>いさぎよ</sup>我が思念<sup>ひかり</sup>の<sup>かがや</sup>目を啓<sup>わ</sup>きて、<sup>しねん</sup>爾が福音の教<sup>わ</sup>を悟らしめ<sup>し</sup>給え、<sup>いさぎよ</sup>我が衷に爾の福<sup>ひかり</sup>たる誠<sup>かがや</sup>を<sup>わ</sup>畏るる<sup>しねん</sup>畏<sup>し</sup>をも入れて、<sup>わ</sup>我等が<sup>し</sup>悉<sup>し</sup>くの肉體<sup>し</sup>の慾<sup>し</sup>を踏み、<sup>し</sup>凡そ爾の喜<sup>し</sup>ぶ所<sup>し</sup>を<sup>し</sup>思い且つ<sup>し</sup>行<sup>し</sup>いて、<sup>し</sup>属神の生活<sup>し</sup>を過ぐるを致させ給え、<sup>し</sup>蓋<sup>し</sup>ハリストス神よ、<sup>し</sup>爾は我が<sup>し</sup>靈<sup>し</sup>と體<sup>し</sup>との光<sup>し</sup>照<sup>し</sup>なり、<sup>し</sup>我等爾と爾の無原<sup>し</sup>の父<sup>し</sup>と至聖<sup>し</sup>至善<sup>し</sup>にし<sup>し</sup>て<sup>し</sup>生命<sup>し</sup>を施<sup>し</sup>す<sup>し</sup>爾の神<sup>し</sup>とに<sup>し</sup>光榮<sup>し</sup>を獻<sup>し</sup>ず、<sup>し</sup>今も何時も<sup>し</sup>世々に<sup>し</sup>、<sup>し</sup>アミン。 )

【 エヴァンゲリオン 福音經 マトフェイ福音書72端 17章14~23節 】

司祭) <sup>えいち</sup>睿智、<sup>つつし</sup>肅みて<sup>た</sup>立<sup>せいふくいんけい</sup>て聖福音經<sup>き</sup>を聴くべし、<sup>しゅうじん</sup>衆人<sup>へいあん</sup>に平安、



司祭) <sup>でん</sup>マトフェイ傳<sup>せいふくいんけい</sup>の聖福音經<sup>よみ</sup>の讀、



司祭) 謹みて聴くべし、彼の時或人イイスに就きて、跪きて曰えり、主よ、我が子を憐

め、彼癩癩を患いて、苦むこと甚し、蓋屢火に倒れ、亦屢水に倒る、我

之を携えて、爾の門徒に就きたれども、彼等醫すこと能わざりき。イイス答えて曰え

り、噫信なき悖れる世や、我何時までか爾等と偕に在らん、何時までか爾等を忍ばん、

彼を此に我に携え來れ。イイス魔鬼を禁めたれば、魔鬼出でて、其子斯の時より愈え

たり。其時門徒私にイイスに就きて曰えり、我等が之を逐い出す能わざりしは何の故

ぞ。イイス彼等に謂えり、爾等信なき故なり、蓋我誠に爾等に語ぐ、爾等若し

芥種の如き信あらば、此の山に、此より彼に移れと言うとも、移らん、又爾等に

も能わざること勿らん。此の類に至りては、祈祷と齋とに由らざれば出でざるなり。ガ

リヤに在る時、イイス彼等に謂えり、人の子は人人の手に付されん。且彼を殺さん、

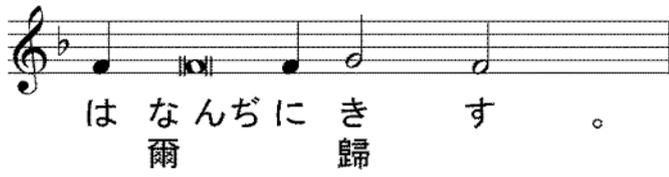
而して第三日に彼復活せん、

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) ひとりの人がイエスに近寄ってきて、ひざまずいて、言った、「主よ、わたしの子をあわれんでください。てんかんで苦しんでおります。何度も何度も火の中や水の中に倒れるのです。それで、その子をお弟子たちのところに連れてきましたが、なおしていただけませんでした」。イエスは答えて言われた、「ああ、なんという不信仰な、曲った時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまであなたがたに我慢ができようか。その子をここに、わたしのところに連れてきなさい」。イエスがおしかりになると、悪霊はその子から出て行った。そして子はその時いやされた。それから、弟子たちがひそかにイエスのもとにきて言った、「わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか」。するとイエスは言われた、「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくが、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう。しかし、このたぐいは、祈と断食とによらなければ、追い出すことはできない」。彼らがガリラヤで集まっていた時、イエスは言われた、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、そして三日目によみがえるであろう」。

\*\*\*\*\*

Musical notation for the phrase: しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい 主 光 榮 爾 歸 光 榮



※聖体礼儀③（金ロイオアン）へ